

国関整霞調第22号
平成24年5月15日

NPO法人アサザ基金
代表理事 飯島 博様

国土交通省関東地方整備局
霞ヶ浦河川事務所長
島山 慎一

霞ヶ浦への放射性物質の蓄積を促進する逆水門管理 および水位上昇の見直しを求める申し入れ（回答）

2012年3月30日付けの申し入れについて、下記のとおり回答申し上げます。

記

質問1. 常陸川水門（逆水門）の開放時間を可能な限り増やして、湖内への放射性物質の蓄積を防止すること。（開放時間を減らしておきながら、開放回数を増やすような手段をとらないこと。）
逆水門の閉鎖によって、湖内の流動性が失われ河川から流入した放射性物質が沈殿し蓄積しやすくなる。とくに、閉鎖性の高い入り江（土浦入り）には、2つの水道用水の取水口がある。
また、逆水門の閉鎖により北浦下流部に霞ヶ浦から流下したヘドロが北浦へ逆流する恐れがある。
北浦下流部にも水道用水の取水口がある。これは、数十万人の住民の命と健康に関わる深刻な問題である。

回答1. 河床の堆積物の除染や拡散防止の措置については、環境省が公表した「除染関係ガイドライン」（平成23年12月14日公表）において、生活圏等の「除染作業が一定程度進展した後に実施を検討することが適当」とされており、平成24年3月22日付け回答書の回答6のとおり河床堆積物の扱いを定めています。放射性物質による環境汚染への対応は面的かつ一元的に対応することが必要であり、今後とも、環境省を中心として一元的な対応ができるよう、協力して参ります。

質問 2. 湖の放射能汚染を促進する水位上昇管理を中止すること。
水位上昇管理を実施するために逆水門の閉鎖時間が増える。
また、水位上昇時には湖内のヨシ原など植生帯が冠水（水没）を繰り返えされることで、放射性物質の土壌や枯れ葉への付着が促進される。流入河川ではすでに増水時に冠水を繰り返している中州や土手の植生帯から極めて高い値の放射性物質が検出されている。水位上昇管理を継続すれば、今後湖内の植生帯からも高い値の放射性物質が検出されるようになってしまう。
魚類や鳥類等の生息場所として重要な植生帯が汚染されれば、漁業や生態系にも重大な影響を長期間にわたり与えることになる。

回答 2. 環境省で実施している水環境の放射性物質モニタリング結果を引き続き注視して参ります。なお、霞ヶ浦の水位運用は、水利用と湖の水辺環境との共存を模索するために、降雨状況を踏まえ目標水位に運用幅を持たせ、必要以上の水位上昇を極力抑えるようきめ細かな運用を震災以前より継続して実施しているところであります。